

# 精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：横浜市立みなと赤十字病院精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：京野 穂集

住 所：〒231-8682 横浜市中区新山下 3 丁目 12 番 1 号

電話番号：045-628-6100

F A X：045 - 628 - 6101

E-mail：h-kyouno.psy@yokohama.jrc.or.jp

■ 専攻医の募集人数：(2) 人

■ 応募方法：履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3 - 1 2 - 1

横浜市立みなと赤十字病院精神科 京野穂集

Tel：045-628-6100

Fax：045-628-6101

担当者：京野穂集（卒後研修実務者）

提出期限：2021 年 9 月 30 日必着

■ 採用判定方法：指導医全員が、応募書類記載内容と面接結果を基に厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

## I 専門研修の理念と使命

### 1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

### 2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

### 3. 専門研修プログラムの特徴

横浜市立みなと赤十字病院は、公設民営（横浜市が設立、日本赤十字社が運営）の病院として平成 17 年に開院した。当院は 634 床 35 診療科からなる総合病院で、精神科は 50 床の全閉鎖病棟を持ち、神奈川県精神科基幹病院の一つとして、4 区市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）の政策医療である精神科救急・身体合併症転院事業に従事している。入院患者の 8 割以上は非自発的入院で、統合失調症やうつ病、双極性感情障害が多いが、身体合併症を複数有したアルコール依存症や薬物依存症、重篤な自殺企図後の小児思春期症例、症状器質性精神病など症例は豊富で多岐にわたり、急性期かつ重症例を幅広く経験することが出来る。十分な指導体制のもとに、生理学的検査、心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気痙攣療法、身体合併症診療、コンサルテーションリエゾン診療、精神科救急診療など全般的な研修が可能である。当院は「断らない救急」を標榜し、救急車受け入れ台数は全国有数の数を誇っており、精神疾患合併の救急外来受診も多い。このため 10 代前半から 90 代後半に及ぶ多彩な年齢層における過量服薬、自殺企図などの自殺関連行動に関する精神医学的対応を十分に学ぶことが出来る。また「日本三大ドヤ街」と呼ばれる寿町が近くにあり、多くのアルコール依存症患者が救急外来経由で来院しており、身体的に重症度の高い依存症患者の精神医学的対応についても学ぶことが可能である。精神保健指定医や専門医取得に必要な症例については数年の研修で揃えることが可能である。身体合併症転院事業では、身体科医師の十分な協力を得て、神奈川県内の行政を介した転院症例の 70%程度を受け入れ、神奈川県の中で中心的な役割を担っている。当院は急性期、重症例の精神疾患を上級医師の十分な指導体制のもとに、チーム医療の中で学べるのが特徴である。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 41 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2218	532
F1	209	65
F2	4450	1235
F3	3091	832
F4 F50	1832	186
F4 F7 F8 F9 F50	792	100
F6	220	51
その他	569	5

### 2. 連携施設名と各施設の特徴

#### A 研修基幹施設

施設名：横浜市立みなと赤十字病院

- ・施設形態：公設民営
- ・院長名：伊藤 宏
- ・指導責任者氏名：京野 穂集
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	108	32
F1	53	13
F2	260	102
F3	251	98

F4 F50	60	30
F4 F7 F8 F9 F50	23	3
F6	6	3
その他	10	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、634床 35診療科からなる総合病院で、精神科は、50床の全閉鎖病棟を持ち、神奈川県精神科基幹病院の1つとして、精神科救急・身体合併症転院事業に従事している。

青年期思春期症例、気分障害（F3）、統合失調症（F2）、重症神経症（F4）、摂食障害（F5）、アルコール依存症（F1）、発達障害（F7-9）、認知症（F0）をはじめとする老年期精神疾患、他科との連携での症状精神病（F0）、周産期精神疾患等の診断、検査、治療を行う。他科と協力して身体合併症患者の治療にあたる。

神奈川県精神科救急システムに参画し、夜間休日の精神科救急入院に対応し、救急外来を受診した自殺企図症例の評価と対応について学ぶ。コンサルテーションリエゾンや、緩和医療における精神科的治療、関与について学ぶ。週1回の合同カンファレンスと毎日のショートカンファレンス、病棟回診、症例検討会により症例への理解を深めるとともに治療関係を含めた精神療法的関与、薬物治療について学習、習得をはかる。集団精神療法、院内作業療法により集団療法の技術を習得する。臨床研究を指導医のもと行い、学会発表、論文発表を行う。

B 研修連携施設名：

① 東京医科歯科大学医学部附属病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：大川 淳
- ・プログラム統括責任者氏名：高橋 英彦
- ・指導責任者氏名：高橋 英彦
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 41 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	165	8

F1	23	1
F2	469	72
F3	821	133
F4 F50	476	23
F4 F7 F8 F9 F50	46	4
F6	36	9
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京医科歯科大学医学部附属病院精神科は、41床の開放病棟であり、急性期の精神病状態の患者の対応は限定されるものの、十分な指導体制のもとに、生理学的検査・心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気けいれん療法、身体合併症診療、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加などの全般的な研修が可能である。また、司法精神医学、児童精神医学、老年精神医学に関しては、専門の研修体制を整備しており、全般的な研修に加えて、柔軟に取り入れることができる。

② 東京都健康長寿医療センター

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：許 俊鋭
- ・指導責任者氏名：古田 光
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 30 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	792	186
F1	16	3
F2	87	29
F3	240	113
F4 F50	130	1
F4 F7 F8 F9 F50	0	0

F6	0	0
その他	28	0

・施設としての特徴

当院は主に高齢者を対象とした急性期総合病院であり、精神疾患の中でも認知症およびせん妄を中心とした器質性精神障害、老年期うつ病、老年期精神病性障害、心気障害や身体表現性障害等の高齢者の精神疾患を十分に経験することができる。画像検査、整理検査等の検査機器も最先端の物が揃う。神経内科等とともに運営しているもの忘れ外来は上記統計とは別に年間1000名の患者の認知症診断を行っている。他診療科との連携は密であり、また、認知症疾患医療センター専門相談室・精神科リエゾンチーム・緩和ケアチーム・栄養サポートチームなどを通して、総合病院ならではの多様なコメディカルスタッフとの連携を経験できる。行政と協力したアウトリーチ事業や相談活動の経験も可能である。また、併設する研究所との連携で、高度な臨床研究を行うことも可能である。

③ 施設名：大宮厚生病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：将田 耕作
- ・指導責任者氏名：将田 耕作
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 281 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	35	18
F1	10	11
F2	1,471	264

F3	709	188
F4 F50	277	42
F4 F7 F8 F9 F50	313	58
F6	28	12
その他	511	5

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

さいたま市の多様化する地域精神医療において中核的役割を期待される大宮厚生病院は、平成24年8月の新病棟稼働を機に「患者様の地域生活を支える病院」という理念のもとに再スタートし、急性期治療の充実、ストレスケア病棟の運営及び慢性期統合失調症患者様の円滑な地域移行という三つの目標を掲げ、種々の臨床的実践を展開している。

急性期治療病棟では、統合失調症及び気分障害ばかりでなく、入院治療を要する精神障害の他のカテゴリーについても症状評価及び診断、薬物療法、対応の仕方等について学ぶことができる。

ストレスケア病棟では、気分障害、特にうつ病の治療に関して、薬物療法ばかりでなく、開放病棟における支持的精神療法、認知行動療法、集団精神療法及び治療的環境の重要性について学ぶことができる。

慢性期病棟及び外来治療では、慢性期統合失調症患者様の症状の把握及び対応の仕方や地域移行の方法を学ぶことができる。

④ 施設名：東京都立広尾病院

- ・施設形態：公立総合病院
- ・院長名：江川 直人
- ・指導責任者氏名：中野谷 貴子
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(30) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	70	20
F1	40	20
F2	445	85
F3	320	90
F4 F50	340	30

F4 F7 F8 F9 F50	6	1
F6	95	15
その他	(成人の知的、発達 障害が 20)	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

病院として救命救急医療を重点化しており、当科の機能として、救命救急センターと協働しての自殺者等へのリエゾン・コンサルテーション医療提供、転棟転科後の合併症医療を行うことが期待されている。それらの症例数は併せて年間300件程度と多い。都立病院の総合病院精神科として、唯一開放病棟で運営されており、入院患者の4割弱を感情障害が占めるのが特徴である。

地域の医療機関と積極的に連携をとっており、外来通院者でデイケア通所が望ましい場合は診療所や、保健所に積極的に紹介している。年間250人程度の他医療機関からの紹介を受けており、同数程度、他の医療機関に紹介を行っている。

入院患者の受け持ちは医長をリーダーとするグループ制(3~4人で1グループ)をとっており、毎週のグループカンファレンスと、心理職、看護職、薬剤師と行う多職種合同カンファレンスが行われ、毎日指導を受けられる体制をとっている。また、神経内科との合同カンファレンスも2カ月に一度行われている

⑤ 施設名：国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：長堀 薫

・指導責任者氏名：光定 博生

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(10) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	523	64
F1	41	2
F2	188	13
F3	78	20
F4 F50	233	18

F4 F7 F8 F9 F50	1	2
F6	11	2
その他	183	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

横須賀共済病院は神奈川県三浦半島の中核的な高度急性期病院であり、救急車の年間受け入れ台数は1万台を超える。このため、自殺未遂患者や身体合併症を抱える精神疾患患者を診療する機会が多い。精神科病床は10床の開放病棟で、入院患者の多くは身体合併症を有する。精神科リエゾンチーム、緩和ケアチーム、認知症ケアチームを有し、総合病院の精神科で必要とされるスキルをバランスよく学ぶことができる。また、第3世代の認知行動療法と呼ばれることのあるアクセプタンス&コミットメント・セラピー（トレーニング）を患者には治療として、病院職員へは予防的介入として行っており、希望者は研修期間中に学ぶことができる。

⑥施設名：医療法人社団 清心会 藤沢病院

- ・施設形態：私立 精神科病院
- ・院長名：石井 紀夫
- ・指導責任者氏名：林 美穂
- ・指導医人数：（ 11 ）人
- ・精神科病床数：（ 420 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	503	170
<b>F1</b>	26	9
<b>F2</b>	1257	528
<b>F3</b>	481	85

<b>F4 F50</b>	246	12
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b>	354	17
<b>F6</b>	44	4
<b>その他</b>	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）：

当院は急性期治療病棟、認知症治療病棟、療養病棟からなる、7病棟 420床を有する精神科単科病院である。関連施設として老人保健施設を有している。湘南の中心都市藤沢における地域精神医療を担い、急性期から社会復帰期までの幅広い症例を、入院・外来を通じて経験することができる。デイケアなどの精神科リハビリテーション、訪問サービスなどの外来サービスの充実も特徴で、地域福祉との連携を深めながら、地域貢献のために精神医療を実践している。

⑦施設名：医療法人社団青木末次郎記念会 相州病院

・施設形態：医療法人 単科精神科病院

・院長名：小坂 淳

・指導責任者氏名：西本 雅彦

・指導医人数：（ 5 ）人

・精神科病床数：（ 263 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	新入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	22	34
<b>F1</b>	0	6
<b>F2</b>	283	142
<b>F3</b>	191	105
<b>F4</b>	60	30
<b>F5</b>	0	0
<b>F6</b>	0	6
<b>F7</b>	20	7

F8	20	6
F9	9	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

相州病院は神奈川県県央地区（厚木市）に於いて、精神科急性期治療病棟（60床）、精神療養棟（157床：内高齢者対応58床）、認知症治療病棟（46床）と幅広く入院を受け入れている。

急性期治療病棟では治療環境としてPICUや個室を十分に確保している。また、各職種がクリニカルパスを共有しながら3ヶ月以内に在宅へ退院ができるような治療実践を積み重ねてきた。3ヶ月を超える難治傾向にある患者様へは、療養病棟においてグループ活動や集団精神療法などを駆使し、より充実した治療ができる努力や工夫を重ねている。認知症治療病棟についても専門的な「診断」「治療」が安心安全に行われるよう積極的に取り組んでいる。2014年12月からは、重篤なうつ病や薬物治療では難治なケースにおいて修正型電気けいれん療法を実施し、これまでに比較して良好な実績を残している。

この様な入院治療環境と共に在宅においても、安心して医療を受けられるよう法人内のクリニックとの連携を密にし、地域での安定した生活を送れる支援を行っている。患者、利用者様の自立した生活への支援のためのグループホーム、就労継続支援（B型）といった福祉サービスとの連携を密にしている。訪問看護ステーション・在宅介護支援・海老名市相談事業等の福祉サービスも展開している。関連クリニックでは精神科・心療内科として一般的な薬物治療だけではなく必要な方には時間をかけた心理カウンセリングを合わせて実施。また、職場復帰サポートコース・リワークに特化したデイケアも含めクリニック・デイケアも充実している。

当法人だけでなく地域において様々な機関（医療・行政・産業・教育等）とともにネットワークを構築し、社会貢献の一助になればと考えている

### 3. 研修プログラム

#### 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法、8. 精神科救急、9. リエゾンコンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

【到達目標】

1 年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、異質性精神障害、物質関連障害の患者を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法および精神療法の基本を学び、リエゾン精神医学を経験する。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。面接によって情報を抽出し診断に結び付けるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。院内の研究会や学会で発表、討論する。

2 年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導をうけつつ、自立して面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ薬物療法の技法を向上させ精神療法として認知行動療法、力動的な精神療法の基本的な考え方と技法を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断、治療を経験する。児童思春期の症例についても経験する。院内研究会や学会で発表、討論する。

3 年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院は専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級医の指導のもとに実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション、地域精神医療等を学ぶ。児童思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断治療を経験する。地域医療の現場に足を運び、他職種との関係を構築することについて学ぶ。地方会や研究会などで積極的に症例発表する。

## 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

## 3) 個別項目について

### ① 倫理性・社会性

横浜市立みなと赤十字病院で指導医の指導並びに関連した各種研修会、学習会に参加により形成する。

### ② 学問的姿勢

専攻医は医学、医療の進歩に遅れることなく、常に自己研鑽学習をすることが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心掛ける。その中で特に興味ある症例については地方会等での発表や学会誌への投稿を進める。

### ③ コアコンピテンシーの習得

日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナーなどに参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身に付けるべき態度などについて履修し、医師としての基本的能力（コアコンピテンシー）を高める機会を設ける。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹病院において臨床研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

症例に関する文献、必読文献リスト、必読図書を指導医の指導のもと、自己学習を行う。

4) ローテーションモデル

初年度は基幹病院にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に付ける。患者及び家族との面接技法、疾患の概念と病態理解、診断と治療計画、補助診断、薬物・身体療法、精神療法心理社会療法、リエゾン・コンサルテーション業務、精神科救急での対応法、関連法規に関する基礎知識を学習する。

2～3年目には東京医科歯科大学医学部附属病院、東京都立広尾病院、大宮厚生病院、東京都健康長寿医療センターを各1年ずつローテートし、身体合併症治療、難治、急性期症例、児童症例、物質関連障害症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査、心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めてゆく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

5) 研修の週間・年間計画

週間スケジュール

基幹施設：横浜市立みなと赤十字病院

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
		モーニング セミナー			モーニング セミナー
8:30～ 9:00	病棟申し送り、行 動制限カンファ	病棟申し送り、行 動制限カンファ	病棟申し送り、行 動制限カンファ	病棟申し送り行動 制限カンファ	病棟申し送り、行 動制限カンファ
午前	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	回診 病棟 C.C	外来・病棟

午後	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟 抄読会	他科カンファ	外来・病棟
夜間	精神科救急		精神科救急		

連携施設：①東京医科歯科大学医学部附属病院

	月	火	水	木	金
0800-0845				抄読会	
0845-0900	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング
0900-1200	病棟業務 新患予診	病棟業務 新患予診	病棟業務 新患予診	病棟・入退院・ リエゾンカンファ	病棟業務 新患予診
1300-1700	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン
1700-1800	脳波カンファ				
1800-	説明会など (不定期)			講演会など (不定期)	

②東京都健康長寿医療センター

	月	火	水	木	金
AM	病棟実習	病棟実習	入院患者 CC	外来実習	病棟実習
PM	リエゾン実習	初診外来実習	物忘れ外来実習	外来実習	病棟実習
その他	病棟回想療法、精神科リエゾンチームカンファ	病院勉強会 家族会参加 神経内科との 合同 CC 緩和 ケアカンファ	行動制限カンファ 病院勉強会 精神科症例検 討会・クルズ ス NST 回診	病院全体の CC・CPC	ECT 外来患者 CC

③大宮厚生病院

	月	火	水	木	金
0855-0900	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス

0930-1200	入院診療` 外来診療	入院診療` 外来診療`	入院診療` 外来診療	入院診療` 外来診療	入院診療` 病棟カンファ レンス
1330-1500	入院診療` 外来診療	入院診療` 外来診療	入院診療` 外来診療	入院診療` 外来診療	入院診療` 地域移行推進 会議
1500-1700	入院診療	入院診療	入院診療	入院診療	入院診療
1730-1830	症例検討会				医局カンファ レンス（月 1 回） 講義（月 2 回）

④ 東京都立広尾病院

	月	火	水	木	金
8	ミーティング (8:45-9:00)				
9	病棟診察	外来診察 (初 診、予診)	救急当番	病棟診察	
10					
11					
12					
13	外来診察 (再診)	病棟診察	病棟診察	外来診察 (再診)	
14		集団療法			
15		グループカンフ ァレンス			
16	多職種合同カ ンファレンス 及び回診	勉強会(不定 期)、神経内科 合同カンファレ ンス(2カ月に 一度)			
17					
18				集合講義 (第1、第3 木曜日)	

当科での研修は週4日勤務を基本にしており、下記のスケジュールは月曜日から木曜日の勤務のケースである。スケジュールのうち、「病棟診察」と、「外来診察」、「救急当番」については、専攻医毎にそれぞれ予定が異なる。

⑤ 横須賀共済病院

	月	火	水	木	金
0830-0900	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
0900-1200	病棟業務	リエゾン・コンサルテーション	病棟業務 新患予診	リエゾン・コンサルテーション	病棟業務 新患予診
1300-1700	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務 リエゾン・コンサルテーション 認知症ケアチームカンファレンス	外来陪席 緩和ケアチームカンファレンス 病棟業務	病棟業務 リエゾン・コンサルテーション	病棟業務 リエゾンカンファレンス
1700-1730	クルズス				新患カンファレンス

⑥ 藤沢病院

(例) 勤務曜日が月、火、水、金、土の場合

	月	火	水	金	土
午前	病棟申し送り 病棟業務 外来初診	病棟申し送り 病棟業務	病棟申し送り 病棟業務 外来再診	病棟申し送り 病棟業務	病棟申し送り 病棟業務
午後	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応 病棟カンファ	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応 医局会 症例検討会	病棟業務 急患対応

- ・当直業務が週1回程度ある。
- ・地域の勉強会や院内研修にも適宜参加する予定。
- ・訪問サービス、デイケアなどの実習も可能。
- ・院内の委員会に担当者としての参加がある。

⑦ 医療法人社団青木末次郎記念会 相州病院

	月	火	水	木	金
9:00~12:00	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務
13:00~17:00	病棟業務 急性期病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務 急性期病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務

	医局会				
--	-----	--	--	--	--

年間スケジュール

基幹施設：横浜市立みなと赤十字病院

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加（任意）
7月	
8月	
9月	
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	日本精神科救急学会総会参加（任意）
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成

連携施設：①東京医科歯科大学医学部附属病院

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 教室同窓会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会（任意）
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会年会（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加（任意）

②東京都健康長寿医療センター

4月	オリエンテーション 専攻医研修開始 指導医の指導実績報告書提出 各種クルズス
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会学術集会参加（任意） 日本老年学会学術総会参加（任意）

7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会（任意）
10月	慰霊祭
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 日本認知症学会学術総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	
1月	
2月	専攻医研修総括、院内症例発表
3月	東京精神医学会学術集会参加（任意）

③大宮厚生病院

4月	オリエンテーション
5月	埼玉県精神神経科医会研修会
6月	日本精神神経学会学術総会参加 さいたま市地域精神医療研究会
7月	院内講演会
8月	
9月	埼玉県精神神経科医会研修会
10月	院内講演会
11月	さいたま市地域精神医療研究会

12月	
1月	埼玉県精神神経科医会研修会
2月	
3月	院内講演会

尚、ポートフォリオ面談での形成的評価、総括的評価及び研修プログラム評価報告書の作成は適時施行する。

④ 東京都立広尾病院

4月	オリエンテーション（着任時の月初めに行われるものを必ず受講）
5月	医療安全研修（5月、9月、2月のうち2回は受講が必須） 情報セキュリティー研修
6月	日本精神神経学会学術総会参加 教室同窓会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	
10月	医療安全研修
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意） ホームカミングデー（東京医科歯科大学）参加
12月	
1月	
2月	医療安全研修

3月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
----	-------------------

⑤横須賀共済病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	日本認知・行動療法学会参加（任意）
10月	
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 日本認知症学会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	専攻医研修報告書作成

⑥ 藤沢病院

4月	専門医研修開始 オリエンテーション・診療グループ紹介 院内研修・症例検討会
5月	院内研修・症例検討会
6月	日本精神神経学会学術総会（任意・時期は変更あり） 院内研修・症例検討会
7月	院内研修・症例検討会
8月	院内研修・症例検討会
9月	院内研修・症例検討会

10月	院内研修・症例検討会
11月	院内研修・症例検討会
12月	院内研修・症例検討会 院内研究発表
1月	院内研修・症例検討会
2月	神奈川県精神医学会例会（任意） 院内研修・症例検討会
3月	専攻医研修報告書 院内研修・症例検討会

☒ 院内研修が年間を通じて毎月複数回開催される。医局講師として担当することもある。  
\* 該当時は精神保健指定医の講習会参加がある。

⑦ 医療法人社団青木末次郎記念会 相州病院

4月	オリエンテーション 研修開始 指導医の指導実績報告書の提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加（任意）
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	

1 2月	
1月	
2月	
3月	<b>専攻医研修報告書の作成</b> <b>研修プログラム評価報告書の作成</b>

#### 4. プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会

- 委員長 医師：京野 穂集
- 看護師：熊谷 宏子
- 精神保健福祉士：瀧川 晴菜
- 東京医科歯科大学医学部附属病院：塩飽 裕紀
- 東京都健康長寿医療センター：古田 光
- 大宮厚生病院：将田 耕作
- 東京都立広尾病院：中野谷 貴子
- 横須賀共済病院：光定 博生
- 藤沢病院：林 美穂
- 相州病院：西本 雅彦

- ・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

#### 5. 評価について

##### 1) 評価体制

横浜市立みなと赤十字病院：京野 穂集  
東京医科歯科大学医学部附属病院：高橋 英彦  
東京都健康長寿医療センター：古田 光  
大宮厚生病院：将田 耕作  
東京都立広尾病院：中野谷 貴子  
横須賀共済病院：光定 博生  
藤沢病院：林 美穂  
相州病院：西本 雅彦

## 2) 評価時期と評価方法

- ・3 か月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認しその後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6 か月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
- ・専攻医は、指導医および研修プログラムについて6 か月ごとに評価し、内容について研修プログラム管理委員会に提出する。研修プログラム管理委員会は、その内容を指導医にフィードバックするとともに、次年度の研修プログラム改訂の参考とする。

## 3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。横浜市立みなと赤十字病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）

### ・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的自己評価を行うこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行う評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

### 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

### 2) 専攻医の心身の健康管理

核施設の健康管理基準に準拠する。

### 3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

### 4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し核施設における研修状況を評価する。